

令和7年度全空連競技規定一部変更について

2025年6月24日

1. プロテストの流れについて（対象：全日本選手権、体重別大会）

- ① 監査、コート主任の対応に、必要に応じて組織委員会が関与し出来るだけプロテストにならないようにする（時間ロスの軽減につながる）
- ② それでも、監督が新たな証拠を提出しプロテストを提出した場合
- ③ 組織委員会が対応をする

尚、組織委員会メンバーは、大会ごとに審判知識が豊富で、経験豊かな人間で全空連から事前に指名される

2. 得点に関する、副審同士のサポートについて

副審は自分の見えた技をポイント（旗を出す）とし、基本的に技が見えない副審はその旗に対してサポートはしない

3. 副審の旗について

副審が、「得点があったと判断して出した旗」を、何らかの理由で下げた場合、その旗（同じ技に対して）をもう一度上げることは不可とする

4. 監査の役割

全空連主催の大会は、基本的に各コートに確認用のビデオを用意する

- ① 両手で掴んで投げを行った競技者に注意を与えなかった
- ② 両手で掴んで投げたのに得点を与えた

以上の場合、監査はビデオで確認し主審に対して注意を与えるように促したり、得点を取り消すよう指示することができる（この場合は、確認用のビデオを設置した場合に限る）

運用の確認

1. 国スポ開催県の前年度講習会に、A ランク審判員を呼ぶ事は禁止する
（地区協議会主催の講習会は可能）
2. 1月～3月の期間に、資格審査員が、地区協議会や競技団体主催以外の審判講習会に参加することは禁止する（特別な事情がある場合は、全空連に申請し判断を仰ぐこと）